

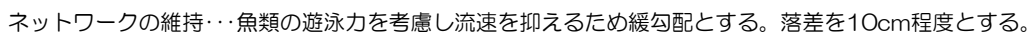
事例NO. 29 (平成17年度発表)

事例NO. 29 (平成17年度発表)

希少種の保護、景観配慮

図面、写真、説明

水路概要図



①自然石護岸水路（用水路）



所々に置き石をすることにより、淀みや瀬を形成する。

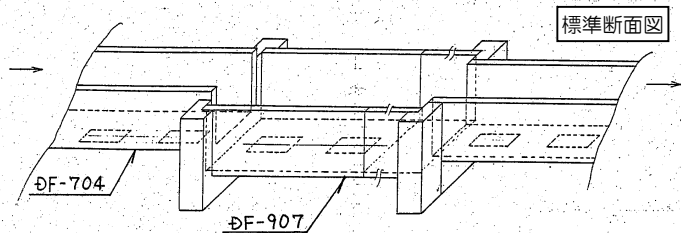
自然石護岸・・・多孔質な環境の創出。底質土の現況利用。→植生の回復

事業概要票

事例NO. 29（平成17年度発表）

図面、写真、説明

②底穴開き排水フリウム（排水路）

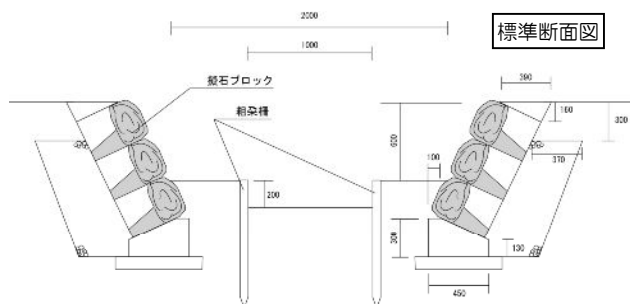


上流部・・・地下水涵養水路→下流部の湧水源

下流部・・・地下水流入→湧水期の水量確保及び現況底質土移植による植生促進。

1ランク大きい排水フリウムを用いることで、プールを形成。

③擬石護岸+粗朶柵水路（用排兼用水路）



粗朶柵部（通常時）・・・多孔質な環境の創出。底質土の現況利用。→植生の回復

擬石護岸部（洪水時）・・・洪水時の法面保護及び景観への配慮。

3. 景観への配慮

周辺の景観との調和・・・擬石ブロックの採用

転落防止柵への木柵の採用



4. 地域住民参加による事業の実施

地元小学生による魚類引越し作戦
及び学識経験者による勉強会の様子



事業実施後の維持管理には、受益者だけでなく地元NPO団体も参加している。